

コード	404020101
記入日	H23.6.7

課コード	117
課名	観光物産課
課長名	中島 紀昌
担当者	田尻 麻紀

# 事務事業事後評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	つばき産業育成事業
----------	-----------

事業種類	単年度事業
事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 22 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	7
施策コード	404	施策名称	次世代のしまの可能性を広げる産業づくり	項コード	1
基本事業コード	40402	基本事業名称	つばき産業の育成	目コード	3
事務事業コード	4040201	事務事業名称	つばき産業育成事業費	細目コード	897
関連計画	法令・条例規則等				

<b>計画 ( PLAN )</b>								
※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を****とする。								
対象：誰、何を対象にしているのか			対象指標：対象の大きさを表す指標					
(対象1) 新上五島町民			(対象指標1) 23,210人 ( H22.4.1現在 )					
(対象2) 観光客実数			(対象指標2) 120,810人 ( H22長崎県観光統計 )					
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入			活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)					
(全体)		(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
・ 椿油の島内外での消費拡大を図るため、島内の旅館業者等と連携した各宿泊施設で使用できる椿油を使用した業務用シャンプー・リンスの開発を行う。		・ 東京のミウ・コスメティック (株) に新商品の開発を委託し、他社製品よりも椿油の含量が多いシャンプー・リンスの2商品を開発した。 ・ 商品の販売に向けて、町内宿泊施設関係者にモニタリングとアンケートを実施。アンケートの結果を踏まえ、より魅力的な商品開発に努めた。	****	****	****	委託事業数+委託予定事業数	****	
・ 開発した商品のモニタリングを実施して市場でのニーズを把握し、より魅力的な商品として販売できるように努める。			①	委託事業数	1事業	100%		平成22年度
			(達成率分析)	計画どおり、化粧品開発にノウハウのある事業者に商品開発を委託することができた。				
			****	****	****	アンケート回答者数+アンケート配布者数	****	
			②	アンケート回答数	43人	86%		平成22年度
			(達成率分析)	よりよい商品開発のためのモニタリング及びアンケート調査を町内の宿泊業関係者に実施し、商品開発に有効な意見を得ることができた。				
目的：何をしたいのか			成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)					
			(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
			****	****	****	開発商品数+開発予定商品数	****	
			①	開発商品数	2商品	100%		平成22年度
			(達成率分析)	シャンプー・リンスをそれぞれ1商品ずつ開発し、計画どおりの商品開発を進めることができた。				
			②					
			(達成率分析)					

<b>実施 ( DO )</b>						
※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。						
	単位	全体計画 H 22 ~ H 22		21年度以前	22年度	
		計画	実績	実績	計画	実績
活動指標	① 事業	1	1		1	1
	② 人	50	43		50	43
成果指標	① 商品	2	2		2	2
	②					
総事業費 C (A+B)	千円	4,400	4,312		4,400	4,312
直接事業費 A	千円	1,600	1,512		1,600	1,512
人件費 B	千円	2,800	2,800		2,800	2,800
内訳	従事職員数	人	0.4	0.4	0.4	0.4
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円				
	県補助金	千円				
	起債	千円				
	その他	千円	800	756		800
一般財源	千円	3,600	3,556		3,600	3,556

**評価 (CHECK)**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理由	島内のつばき産業を育成するためには、副産物である椿油の需要拡大が必須であり、商品開発を行うことは椿油の消費拡大に繋がるため必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理由	椿油の原料となる椿実の採取量が増加している傾向にあり、椿油の在庫が多い状況であったため、新商品の開発など新たな側面から需要の拡大を図る必要がある。
	・事業の対象・目的は適切でしたか。	● はい いいえ	理由	椿油の販売促進を図るため、町民及び観光客等が購入・使用しやすい新商品の開発を図ることは、消費者の椿油利用促進に繋がるため適切であった。
有効性	・事業の目的は達成されましたか。	● はい いいえ	理由	従来の商品よりも椿油の含量が多いシャンプー・リンスを開発しモニタリングを実施できたので、今後の商品販売に繋げることが可能となった。
	・成果を向上させる余地はありませんでしたか。	● はい いいえ	理由	化粧品業界や市場に精通した会社を開発を委託することができたため、これからの消費者のニーズにあった商品を開発することができた。
	・事業を行わない場合の影響はありませんでしたか。	● はい いいえ	理由	商品開発などの新しい手を打たなければ、椿油の在庫が多くなり、つばき産業全体の衰退が危惧された。
	・類似事業との整理統合はできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	新商品開発という特殊な事業であり、類似事業がないため整理統合はできなかった。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	2つの商品(シャンプー・リンス)を開発するのにかかった費用は最低限のものであり、これ以上の削減は困難である。
	・人件費を削減することはできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	最小の人員で行っており削減できない。
	・受益者負担は適正でしたか。	● はい いいえ	理由	受益者負担は発生しない。

**改善 (ACTION)**

1次評価	○今後の関連事業に対する改善点	本事業で開発したシャンプー・リンスの販売に向け、開発委託事業者、町内販売事業者及び宿泊事業者と連携し、製造・販売体制の確立と島内外への椿油商品のPRに努めたい。
	○目的が達成されていない場合の課題と改善策	特になし。
2次評価		本事業で開発したシャンプー・リンスの販売に向け、開発委託事業者、町内販売事業者及び宿泊事業者と連携し、製造・販売体制の確立と島内外への椿油商品のPRに努めること。

住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。